

2019年11月

第35号

RFMF

The Rutsuki Fujisaki Memorial Fund News

るつ記記念基金だより

ご支援を感謝します

おかげさまで2018年度は11名が大学を卒業し旅立ちました。チャイルド・ファンド・ジャパンの奨学生9名とシリマン大学の神学生2名から感謝のメッセージをいただきましたので、その中からマリカルのお手紙を紹介します。

マリカル

2015年度奨学生。情報工学を専攻し、最優秀卒業生として表彰されました。(写真は卒業式にて)

Sending love,
thank you and
Goodbye....



ハナ



ローレンス



ディクシー



エレン



ジェラルド

親愛なるスポンサー (*1) の皆さまへ

皆さまがいつも共に歩んでくださいまして、ご支援を続けてくださったこと、心から感謝を申し上げます。いよいよ卒業いたしました。皆さまが与えてくださったご親切を決して忘れは致しません。本当にありがとうございます。

わたしはチャイルド・ファンド・ジャパンの支援プログラムで多くのことを学びました。そこでの良い人格に達するための自己啓発プログラムにより学んだ全てのことを他の人々とわかつあえるものと確信しています。

わたしには卒業後に実現したい多くの計画があります。まず仕事に就いてわたしの貧しい家族の生活の必要にこたえたいと思います。そして、又、皆さまの他者とわかつあいながら生きるという生き方、それを模範 (*2) にして、わたし自身も他者の多様なニーズに喜んでこたえる人生の旅路を歩みたいと思います。

さようなら…、愛するスポンサーの皆さま。



エリカ



ジュディ



クロヴィ



ケネス



エリック

皆さまの奨学生マリカル

(*1) : スポンサー = るつ記記念基金

(*2) : 模範 (role modelの訳)

ごあいさつ

2018年～2019年、この一年間も全国各地の100名を超える多くの皆さま方から160万円余の熱きお祈りと尊いご支援を賜わりました。心より感謝し、御礼申し上げます。

「るつ記念基金」は、アジアの貧しい人々のために働きたいとの夢を抱き、フィリピン大学での学びを目前にした1983年4月2日、海で溺れた2名のフィリピン人女性を助けようと事故死された藤崎るつ記さんを悼み、彼女の夢を継承すべく、1983年11月、日立教会に創設され36周年を迎えました。

36年間で137名のフィリピン人青年たちの大学・専門学校の奨学生の支援ができました。内訳は教育47名、社会福祉・心理15名、医療3名、農業・理工27名、経済・商業・会計19名、神学18名、その他(海洋・ホテル経営等)8名で、合計は男性49名、女性88名。奨学生たちが皆、フィリピン国の諸地域で、社会の多分野でご活躍されていると伝え聞いてほんとうに嬉しく思い大きな喜びです。今後のお働きにいっそうの神様の恵みと祝福をお祈りしています。

基金創設以来、日本もフィリピンも大きく変わり、現在、支援のあり方や支援金の増額等、ふさわしい支援を模索しています。

2019年度新奨学生

今年度も新しい奨学生(大学生)が推薦されました。チャイルド・ファンド・ジャパンから6名(NO.①～⑥)、シリマン大学神学生2名(NO.⑦⑧)、合計8名を紹介いたします。()内は専攻

①ダイアナ(医療工学)



家族は軽い素材で作られた家で暮らし、きょうだい全員は学校に通っている。父親は漁師で収入は少なく不安定。母親は美容関係の技能があり近所の人々を顧客として不定期に仕事をしている。家族は教会に通っている。

ダイアナは家族の中で一番年下。家族から愛されているが、甘やかされているわけではなく責任観の強い女の子に育てられた。授業がないときや休日には母親の手伝いをする。学校の成績は良く、クラスで優秀生徒に選ばれた。宿題などは欠かさずに家でやっている。歌うことが好きで、学校のコンテストや村のお祭りで入賞している。地域の人々とも仲が良い。

日本キリスト教団日立教会・牧師

島田 進、島田信子

NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパンの武田勝彦事務局長と職員の皆さま、また日本聖書神学校・神保望校長、柳下明子教授、皆さま方の暖かな御教示・ご支援に感謝します。

私たちを取り巻く国内外の環境は、私たちから愛の心を喪失させる厳しい現実を映し出しています。「るつ記念基金」の輪が広がり浸透することによって、フィリピンをはじめ、世界中にキリストの愛が満ち溢れ、平和が築かれていきますようにと、切に祈らされています。

どうぞ、皆さま方のうえに、キリストの愛と平和が満ち溢れますように。



るつ記念基金委員会

・前列中央：島田進牧師、島田信子牧師

②ジュニロン(電気工学)



母親と弟と一緒に暮らす家は、軽素材で作られており電気は来ていて。水は地域の共同水栓から取り調理には薪を使う。母親は不定期雇用の農園労働者で二人の子どもたちは週末には農園を手伝う。

ジュニロンは、努力家で優しい性格である。成績はいつも良好で、昨年度は学校で優秀賞をもらった。母親やセンターの学習支援に感謝し、家事や農園での手伝いをし母を喜ばせたいと思っている。水汲み、薪集めや皿洗いなども彼が分担する。教会やセンターでも活発に活動し自己啓発プログラムを通して人生に対する積極的で、将来電気技師になる夢へむかって努力している。

③カイル（農学）



両親が離婚したため母親方の祖父母に面倒を見てもらっている。その家は小さく、竹やヤシの葉のような軽い素材で作られており台風に耐えられる作りではない。叔父が闘鶏の世話をして何とか生計を立てている。収入の足しにと祖母はココナッツ葉を編んで売り、また自給自足のためにバナナを育てている。

カイルはセンターでの青年向けセッションに参加し、その中でリーダーとしての能力を見せた。良好な成績でハイスクールを卒業した。文章を書くことや絵を描くことが好き。将来の夢は、農業専門家になること。

④レズ（犯罪学）



家はセメント、ベニヤ板、トタン屋根でできているが荒れており、悪天候には耐えられない。水は共用の井戸、料理には土のかまどと薪を使用している。父親は不定期の米農園労働者。少ない収入を補うために、家畜を育てて売っている。母親は投薬が必要で、父親は収入のやりくりに苦労している。

レズは寛容な心をもっており小さな子どもたちにも優しく接している。学校の成績は良くクラスの討論会にも活発に参加している。将来は船員になりたいと思ったことがあった。いろいろな国を回りながら家族のために収入を得ることができるからだ。

⑤ミカ（経営管理学）



家はコンクリートとトタンでできている。水は水域から取る。調理はガスコンロと炭を利用。父親は車職工として働く。母親は、収入を補うために、クリスマスライトの組立工として働いている。

ハイスクール卒業時には、優秀賞と良い性格賞を貰った。センターでも防災月における行進や、子どもの月祝い行事にも活発に参加した。地域でボランティアとして子どもたちの夏期クラスで勉強を教えていた。将来の夢はビジネスウーマンとなることで、営業と管理の課程を取る予定である。

⑥アイバン（土木工学）



アイバンは子ども7人の大家族で、父親がトライシクルの運転手や村の雑用を引き受けて収入を得ているが、生活は厳しい。母親も内職をするが、微々たる稼ぎにしかならない。

彼は責任感があり、頼りがいのある存在。家では皿洗いや弟や妹の面倒をよく見ている。絵を描くことが好きで上手。学校では常に成績優秀で、センターではリーダーとして様々な活動をリードしている。青年組織でもリーダーとして素晴らしい実績をあげている。夢はエンジニアになって家を建て、家族の経済状況も良くすること。

⑦ヘセド（神学）



大学で初等教育学を専攻し、この春卒業したが、フィリピン合同教会の牧師である父親と同じく、神の呼びかけにこたえたいとシリマン大学に入学した。教会では教会学校の教師や教会の諸活動の

リーダーとして積極的に活動してきた。出身地域では牧師が少なくなってきたため教会や協議会の期待は大きいが、金銭的な面では大学での就学支援までは厳しく基金の支援に感謝している。学びを通して、神の道具となり奉仕することがどんなに意味のあることなのかということを、特に青年達へ伝えていくことが自分の目標であると信じている。

⑧ヨナ（神学）



3人の子どもの母親。両親はフィリピン合同教会の信徒で家族で教会生活をしていたが、厳しい暴力的な地域紛争の勃発で、一時的に全員が安全な地域に避難したものの教会が近くになくバス代を払う余裕もないことから教会生活を続けることができない時期もあった。彼女は大学ではコンピューター科学を専攻したが、希望する職種に恵まれず農業をしながら生計を立ててきた。教会のセミナーや研修の機会には積極的に参加してきた。子どもたちの自立に伴い、教会の期待と支援を得て神と教会、そして地域に奉仕するために学びたいと願っている。

奨学生の現状（今年度も皆さんを応援します）

2019年度の奨学生は新人8名(2～3頁)、継続10名(本頁)、合計18名で、年間180万円を贈呈しました。どうぞ、フィリピン各地で学び成長する彼ら、彼女たちのためにお祈りください。なお、1984年以来累計で137名を支援し奨学金を2584万円贈呈してきました。



2015年度



ジェルリン(中等教育学)

島別奨学生分布



() : 2019年10月までの累計人員、合計137人。

採用年度

名前(専攻)

2016年度



アイリス(情報技術)

2017年度



ジャフェ(神学)



ジェラ(中等教育学)



アルリ(神学)



ガニバー(神学)

2018年度



ジェイヴィ(医療工学)



アイリッシュ(経営管理学)



リチエル(教育学)



ジョエウィン(神学)

さようなら…、お祈りしています！！

() : 採用年度及び専攻

◎ディクシー(2014年、神学)、ジェラルド(2014年、神学)、エレン(2015年、教育学)、
マリカル(2015年、情報工学)、ハナ(2015年、農学)、ローレンス(2016年、情報技術)、
エリック(2016年、犯罪学)、ジュディ(2017年、初等教育学)、エリカ(2017年、中等教育学)、
クロヴィ(2017年、中等教育学)、ケネス(2017年、初等教育学) :

1ページに全員の顔写真があります。お陰様で卒業いたしました。教育学専攻生
たちは今後国家試験に挑戦し教師を目指します。

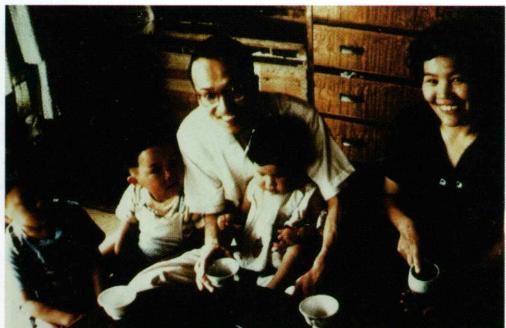
◎カルラ(2017年、中等教育学)：残念ですが、家庭などの事情により中途で支援から外れました。

RFMFフォトアルバム

るつちゃんの幼少時代から第1回奨学生の誕生(1984年)までを写真で振り返ります。

愛されて

尊敬していたドイツ人
宣教師で高名な幼児教
育の専門家・キュック
リッヒ先生
(1897 ~ 1976)



母の愛に包まれて



牧師館での家族写真

フィリピン留学直前に
家族写真を撮ることにな
った。前列に藤崎信
牧師、一枝さん、後列
左から長男の三牧さ
ん、るつちゃん、次男
の悦児さん。

一粒の種は地に落ち



ケソン市・聖アンドレ神学校での葬儀

るつ記念基金で誕生した第1回奨学生
のジュリエットとお母さまを現地に訪問
した藤崎一枝さん。笑顔があふれる…。



桜美林学園の記念植
樹。白い標柱には「人
が友のために生命を捨
てる…」と記載されて
いる。



インフォメーション

茨城キリスト教学園中学校文化祭に出展 — 2018年11月3日(土) —

2002年から出展を続け昨年は17年目になりました。展示室には中学生やご家族など約200名の皆さまが訪れてくださり、熱心に見学して下さいました。



支援者からのメッセージ

昨年の「基金だより」のご感想をお寄せいただきました。デニスやレジーナの真摯な姿勢への共感と激励と受け止めています。心温まるお言葉に感激、感謝してご紹介させていただきます。

「基金だより」第34号を読んで、今まで以上の感動を覚えました。基金による活動の“実り”もですが、その実りである奨学生たちの“清らかな心”に対してです。読みながら涙がこぼれました。 M.N.

* 編集後記 ☆本年も新しい奨学生をご紹介することができました。家族や支援センターに支えられながら培ってきた将来の夢に向けて、学生生活を過ごしてもらえることを祈っています。私たちも基金の将来の姿について話し合いを続けてきました一年となりました。(書記:青野友祐)
☆毎年11月の茨城キリスト教学園学園祭では、中学校の教室で基金の紹介展示をさせていただいている。大勢の生徒さんだけではなく、保護者、卒業生の方々も関心を持ってみてください。フィリピン・ミンダナオ島出身の方にお会いした時には、私たちも特別の親近感を持ってお話を弾みました。今年はどんな出会いがあるでしょうか。

(大内田春子)

☆島田牧師夫妻はじめRFMF委員会のメンバーと共に8月15日の日立市恒例の平和行進に参加しました。初対面の参加者からRFMFの活動について励ましのお声掛け頂き驚きました。36年にも及ぶ皆様のお支えを思って感謝し、活動の重みを改めて感じました。この基金だよりと共にホームページ*)でも継続して活動状況発信に努めたいと思います。

*)<http://hitachi-church.justhpbjs.jp/New-RFMF/rfmf.html>
またはQRコード(右上)。
(金丸公春)
☆昨年は皆様のお祈りとご協力により160万円を超える献金を頂き、今年度、チャイルド・ファンド・ジャパンの奨学生12人に120万円とシリマン大学の奨学生に60万円を贈呈する事が出来ました。「奨学生の援助を永く続けてほしい」

2018年度RFMF記念礼拝 2018年11月18日(日)



チャイルド・ファンド・ジャパン理事でルーテル学院大学教授の原島博先生を説教者にお迎えして記念礼拝をささげました。また、チャイルド・ファンド・ジャパンのスタッフであり日立教会を担当してくださっている西川涼子氏にはフィリピンや奨学生たちの現状、これから活動方針などについてご報告をいただきました。

今後の支援計画を協議中

2018年度より従来の支援金を見直し、一人当たり年間10万円としましたが、引き続きチャイルド・ファンド・ジャパンと日本聖書神学校及びシリマン大学のご指導をいただきながら、今後の支援のあり方や支援金について検討をしています。背景には、フィリピンは近年の著しい経済成長にもかかわらず、依然としてアジアの中で国民の経済格差が最も大きく貧困の削減にはなっていません。又、私たちの奨学生たちにとっては10万円の支援金で年間授業料は貰えても文房具や生活費などはすべて自己負担ですから、現状では貧しい青年達を充分に支援できていないという現実があります。お祈りください。

との元奨学生達の希望に応えて参りたいと思います。引きお祈りください、募金へのご協力をお願ひいたします。

(会計:菅原卓子)

☆今年はシリマン大学神学部(SUDS)への奨学生の運用について検討してきました。そして日立教会は年間の奨学生総額を日本聖書神学校(JBTS)と協議して定め、SUDSは年間の奨学生の人数と氏名を決定するという改定案をつくり、現在、覚書の調印手続き中です。

(白瀬義広)

☆いつものことながら、卒業していく奨学生から感謝の言葉とともに「good-bye」といわれるのは寂しいものです。しかし、かれらの「他者とわかつあいながら生きていきたい…」との熱いメッセージから新鮮なインスピレーションをいただきます。感謝!

(委員長:和田直)

るつ記記念基金だより 第35号

2019年11月3日発行

編集:るつ記記念基金委員会
発行:日本キリスト教団日立教会

〒317-0064 茨城県日立市神峰町4-14-7
TEL 0294-21-4565 FAX 0294-23-3367
URL <http://hitachi-church.justhpbjs.jp>
郵便振替 口座番号/00300-9-15365
日本キリスト教団日立教会るつ記記念基金